

2025年度環境経営レポート

(対象期間:2025年3月1日~2026年2月28日)



Shimizucho
 **清水長 金属工業株式会社**
Benefit for Future by FACE TECH

作成日: 2026年5月25日
発行責任者: 矢野 弘一

環境経営方針

『省資源を図り、法を遵守し「地域・地球」の環境を守る』

□環境理念

清水長金属工業株式会社は、ものづくり基盤技術として表面処理である「電気めっき及び化学めっき」を1923年創業以来継続し、大切な地球資源といわれる金属鉱床・金属鉱物が枯渇することがないように、私たちのめっき技術【僅か数 μm ～数十 μm のめっき金属皮膜を金属製品上に付与することによって】①めっき前の金属製品(材料)上にはなかった新たな機能的特性(硬い、柔らかい、電気伝導性が優れている、錆びにくい等)を与えている。
②製品の期待寿命を伸ばし製品の付加価値・品質を向上させ、長持ちさせることで最終廃棄物の削減にも繋がっている。
に誇りをもち「かけがえのない地域・地球の環境を守り次世代に繋げていく」ことが大切である。

私たちが業としている「電気めっき及び化学めっき」は、電力・ガス・水・化学物質等を使用します。これらの環境負荷物質を適切に管理・把握し、使用量、廃棄量を「少しでも①減らせられないか、②ムダな使用をなくせないか、③他のものにかえられないか」を含め、入口として物品調達時にはグリーン購入やトップランナー品の選択を継続推奨し、出口としては3R活動・SDGsを通じ持続可能な社会に貢献し顧客様、社会から認められる活動とするために環境活動各分科会を中心に下記の行動指針を全社一丸となり、積極的に取り組んでまいります。

□行動指針

以下の指針に基づきCO₂排出量削減と省資源を図り、法を遵守し『地域・地球』の環境を守ります。

- (1) 環境関連の法令遵守(水質汚濁防止・大気汚染防止・土壌汚染防止など)
環境に関する法律及びその他顧客等の要求事項を遵守し、環境保全・公害防止に努めます。
- (2) CO₂排出量の低減(省エネルギー化・高効率化)の推進
電力・ガス等のエネルギー資源を有効利用しCO₂排出量低減や高効率化に努めます。
- (3) 廃棄物(産業廃棄物・事業系一般廃棄物)の3R化の推進
廃棄物の分別収集を推進し、再資源化など3R活動に積極的に取り組みます。
- (4) 節水活動の推進
工場で使用する水資源の節約や有効利用に積極的に取り組みます。
- (5) 化学物質の適正管理と有効利用の推進
処理液管理方法やめっき工法等を見直す事により化学物質資源の低減に努めます。
- (6) 環境啓発活動の展開
全社員が環境負荷低減を積極的に実践できるように、この環境経営方針を周知するとともに社外にも公表します。
- (7) 地域活動として社会貢献活動の展開
自社の環境整備・近隣住民・地域への環境配慮・こども110番・希少植物植栽協力で努めます。
- (8) 製品及びサービスに関する環境への配慮
環境に配慮した製品の開発・販売促進および工程プロセスの確立を推進します。

改定日 2026年 5月 7日

清水長金属工業株式会社

代表取締役

近藤 慶太

□取組対象組織・活動

(1) 名称及び代表者名

清水長金属工業株式会社
代表取締役社長 近藤 慶太

(2) 所在地

本社・工場:京都市南区西九条高島町31番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 技術部長兼製造部長 矢野 弘一
担当者(環境事務局) 技術部 製造管理課 係長 吉田 浩子
TEL:075-681-7331
FAX:075-691-2348
E-mail : c.s.-seizo@shimizucho.com

(4) 事業内容

電気めっき・化学めっき及びショットプラストによる表面処理加工業
主要加工品目
電気めっき(銅・ニッケル・クロム・錫・銀・亜鉛・黒ニッケル・錫-コバルト合金)
化学めっき(ニッケル-リン・ニムテック・トライボロン)
プラスト (サンドプラスト・液体ホーニング)

(5) 事業の規模

資本金 1,500万円 床面積 3,641㎡ 従業員数 56名(2026年4月現在、役員・パート含む)

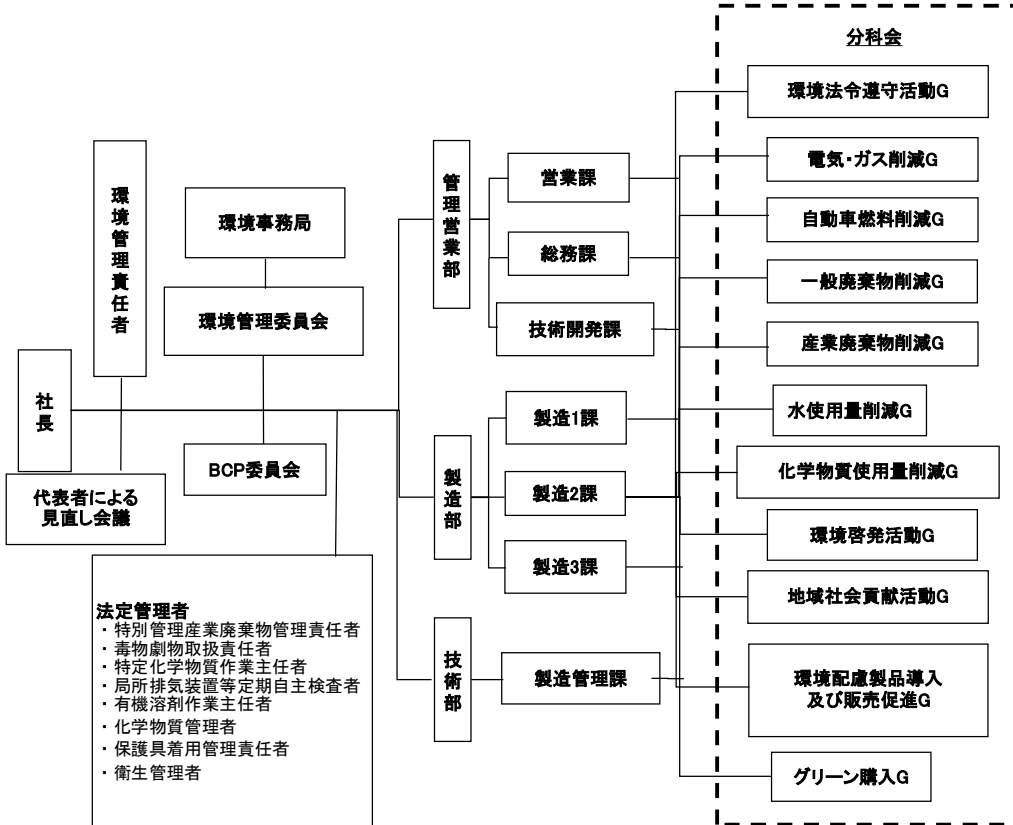
(6) 事業年度

3月～翌年2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 清水長金属工業株式会社
活動: 電気めっき・化学めっき及びショットプラストによる表面処理加工業
対象: 全社・全事業

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	726,589	679,205	815,482	783,831
電力	使用量 (kWh)	978,951	963,609	1,018,414	956,257
	kg-CO ₂	342,633	297,755	427,734	400,672
ガソリン	使用量 (L)	2,881	2,909	2,918	3,925
	kg-CO ₂	6,684	6,748	6,770	9,106
軽油	使用量 (L)	16,352	17,834	18,207	17,046
	kg-CO ₂	42,189	41,375	42,241	43,980
灯油	使用量 (L)	10,800	12,060	12,240	10,170
	kg-CO ₂	26,892	30,029	30,478	25,323
都市ガス	使用量 (m ³)	146,171	143,850	142,711	141,088
	kg-CO ₂	308,191	303,298	308,256	304,750
廃棄物排出量総合計	kg	183,677	173,533	169,367	168,744
一般廃棄物	kg	3,578	4,029	3,272	3,227
産業廃棄物	kg	76,509	80,764	83,265	81,357
特別管理産業廃棄物	kg	103,590	88,740	85,830	84,160
水使用量	m ³	38,896	37,866	32,947	31,834
総排水量	m ³	36,122	35,535	31,754	30,565
化学物質使用量	kg	3,659	3,745	3,217	2,534

* 電力の二酸化炭素排出係数は 2024年度は0.419kg-CO₂を、2025年から2027年の3年間固定します。

* 化学物質使用量はPRTR法第一種指定化学物質の合計使用量です。

□環境目標及びその実績

項目	年度	2024年度 基準年度	取組年 2025年度			2026年度	2027年度
			(目標) 基準年度比	(実績) 基準年度比	評価	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	815,482	815,482	783,831	○	815,482	815,482
電力からのCO ₂ 排出量 削減 *1	kWh	1,018,414	1,018,414	956,257	○	1,018,414	1,018,414
	kg-CO ₂	427,734	427,537	400,672		427,734	400,672
ガソリンのからのCO ₂ 排 出量削減	L	2,918	2,889	3,925	△	2,860	2,830
	kg-CO ₂	6,770	6,702	9,106		6,634	6,567
都市ガスのからのCO ₂ 排 出量削減	m ³	142,711	142,711	141,088	○	142,711	142,711
	kg-CO ₂	308,256	308,256	304,750		308,256	308,256
ニッケル化合物使用量の 削減	kg/百万円	1.638	1.652	1.488	○	1.488	1.488
		2024年度	100.8%	90.8%		90.8%	90.8%
シアン化合物使用量の 削減	kg/百万円	0.863	0.870	0.804	○	0.804	0.804
		2024年度	100.8%	93.1%		93.1%	93.1%
脱脂剤使用量の削減	kg/百万円	0.443	0.416	0.438	×	0.438	0.438
		2024年度	93.8%	98.9%		98.9%	98.9%
一般廃棄物の削減	紙再生比率		31.0%	28.0%	×	28.0%	28.0%
		2024年度					
産業廃棄物の削減	kg/百万円	142.5	139.5	141.6	○	140.0	140.0
		2024年度	97.9%	99.3%		98.2%	98.2%
特別管理産業廃棄物の 削減	kg/百万円	146.9	139.8	146.5	×	145	145
		2024年度	95.2%	99.7%		98.7%	98.7%
水使用量の削減	m ³	37,866	37,546	31,834	△	31,834	31,834
		2024年度	99.2%	84.1%		84.1%	84.1%
グリーン購入		-	*2				
環境配慮型めっき製品 の開発、販売促進及び 工程プロセスの確立		-	*2 【行動計画による】				
地域社会貢献活動		-	*2 【行動計画による】				

*1 電力の二酸化炭素調整後排出係数：2024年度 0.419kg-CO₂/kWh(2025年から2027年の3年間固定)

*2 数値目標設定が困難な為、行動目標を設定し活動した。

具体的な目標と実績は「環境経営計画と取組結果及び評価」を参照。

*3 化学物質使用量の削減目標及び産業廃棄物の削減目標に用いる売上根拠は2024年度の全社売上584,289千円を用いた。

□環境活動計画と取組結果及び評価、次年度取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
電力からのCO2排出量削減 *1			
目標達成手段	△		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・ピークカット ピークシフト	○	継続	電気使用量としては、目標値に対して約10%減ではあるが、売り上げが低調な為、原単位評価で未達となっている。ピークシフト・ピークカットの効果もあり、ピーク値(385kw)オーバーはなかった、今後は売り上げが低調中でも作業効率の改善や節電活動により、使用量の削減を目指していきたい。
・日々の5Sメンテナンス	○	継続	
・業務の効率化	×	継続	
・テラー等の保温対策(※開発の保温剤)	△	継続	
ガソリンのからのCO2排出量削減			
目標達成手段	△		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・全社一斉ノーマイカーデーを年2回以上実施	○	継続	Co2排出量が最終5.77%で今期の目標未達の結果となった。毎日の「エコドライブ10の進め」の唱和・車両メンテの管理・集配ルートの情報共有で集配業務の効率化等の活動は行うも目標の達成はならず。なかでも、今期は二度走りが15件と多く、走行距離として284.9kmとなった。無駄走りの内訳としては、集荷忘れ・誤配・納品忘れ等のヒューマンエラー起点の要因が目立つ結果となった。これは完全に無駄な走行行為、来期は対策をしっかりと行い、無駄な走行を減らせるように努める事とする。又、集配業務で走行距離を間引くのが困難な側面もあり、来季の活動目標を一考する事とする。
個人でノーマイカーデー	△	継続	
・燃費向上講習会の実施	○	継続	
・車両の空気圧点検	○	継続	
・エンジンオイル、オイルエレメント点検の実施	×	継続	
・無駄走りの削減	○	継続	
・収集データの見える化	○	継続	
・「エコドライブ10のすすめ」を共有、意識向上	○	継続	
都市ガスのからのCO3排出量削減			
目標達成手段	△		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・蒸気配管類のメンテナンス	○	継続	電気と同様に使用量としては約5%減となっているが、売り上げが低調な為、原単位評価は未達となっている。無電解使用の受注が低調な年でも原単位目標が達成できるように加温方法の見直しや保温対策に取り組んでいきたい。
・保温対策	○	継続	
・効率的なボイラーの利用方法	△	継続	
・業務の効率化	×	継続	
ニッケル化合物使用量の削減			
目標達成手段	◎		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
1. 無電解ニッケル、ニムテック、トライボロンの長寿命化及び槽析出防止対策(メンテナンス・清掃活動)	○	継続	ニッケル化合物の使用量目標値1063.30kgに対し855.01kgと208.02kg減となり原単位目標も2.927kg/百万円と共に達成。10月にトライボロンの流出があったが化学物質Gとしての使用量では燃程影響は無かった。原単位が達成できたのは、製品の価格がアップが大きく影響している。来期も無電解の突発的更新が無い様に注意すると共に異物混入防止対策も行い処理液の長寿命化に務める。またニッケル・ウッドニッケルに不純物が混入しない様に注意していく。
2. 光沢ニッケルめっき(自装)の部分更新の回避	△	継続	
3. 光沢ニッケル、無電解ニッケルの低濃度化検討	△	継続	
シアン化合物使用量の削減			
目標達成手段	△		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
1. 自動装飾青化銅炭酸根抑制対策	△	継続	使用量目標値560.30kgに対し461.76kgと98.54kg減で目標達成。原単位目標は1.27/百万円に対し1.289/百万円と目標未達成となった。売り上げの低調とプレーキの減産が影響を与えた。活動としては自動装飾炭酸ソーダ抑制活動として間欠ブローは今後も継続していく。また精密装飾銀めっきは炭酸ソーダの除去を毎年実施する事を記録に残す。自動装飾、ドラム缶に処理液を抜き取る作業も効果があり継続する。来期は原単位目標を25年の総売り上げと26年の目標売り上げの2パターンで原単位を決めようと思う。
2. トリップの管理	△	継続	
脱脂剤使用量の削減			
目標達成手段	×		□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
1. 油分削減活動(営業部と連携)	△	継続	使用量目標値267.52kgに対し251.89kgと15.63kg減で目標達成。原単位目標は0.415kg/百万円に対し0.469kg/百万円で目標未達成。シアン化合物同様売り上げが低調だった事が原因と考える。来期はシンナー洗浄が困難な状況になる可能性が高く、少しでも顧客様に油分削減にご協力頂けるように油分削減調査シートを大いに活用していかねばならない。脱脂の寿命を伸ばす為にも製品に付着している油分量が大きく左右する。今後、手付けラインは粗脱脂に変わるRPCの脱脂も検討していかねばならない。原単位目標はシアン同様になると思う。
2. 脱脂の濃度管理	○	継続	

一般廃棄物の削減			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・可燃物、紙くずの分別状況の定常化(継続)	△	継続	<p>今年総括として、紙屑割合目標値に対しては残念ながら未達となった。主な要因は、半期でも述べ通り各部門における分別の目的が周知出来ていなかったことが最後まで足かせになり、後半の追い上げも見られなかったが目標達成に届かなかった悔いの残る年度となった。しかし、全社的な分別意識の高まりは年々向上しており、当分科会を通じて環境負荷低減に対する取り組みはレベルアップしている。当分科会では毎日の正確な分別により成果を生み出せる活動の積み上げが基軸となる。それらを効果的に実行するためには、目標に対する現状到達点を全社に共有することが重要であり、活動が停滞している部門には個別に都度啓発活動による課題解決や軌道修正を丁寧に進める必要がある。来期は厳密性にとんだ当分科会の計画と実行を再考し、年間通して充実感と達成感のある分科会活動を進めたいと考える。</p>
①産廃置場分別状況のバトロール(3回/年)	×	継続	
②各職場の定期的バトロール実施	△	継続	
・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進(継続)	△	継続	
①製造部の再生紙くず活動の推進(継続)	△	継続	
②管理営業部緩衝材の作成(継続)	×	継続	
③ペーパーレス推進活動	×	継続	
④管理営業部事務所ゴミ箱リニューアル	○	継続	
取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容

産業廃棄物の削減			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・ムダな更新が増えないように	○	継続	<p>排出量は、目標対比-21,796kgであり達成となった。しかしながら、原単位目標は未達成であった。これは当初の設定売上643.8百万円に対し、実績が534.0百万円であったことに由来する。売上が減った程度固定の排出は発生するため、売上と排出量が完全に連動せず目標未達となったものと考えられる。仮に排出量目標値179,784kgと実績534.0百万円を用い原単位目標値を算出すると336.6となるため達成となる。</p>
・不純物蓄積量の監視	△	継続	
・特機ラインの排出量の監視	○	継続	
・廃棄物分別の徹底	△	継続	
・3S活動の実施	×	継続	
・化学物質Gと運動 ①クレーム発生撲滅	×	継続	
②加エミスによるロスの低減	△	継続	
③処理液の更新基準の適正管理	△	継続	
④油分の減少等によるアルカリ廃棄減少	△	継続	

水使用量の削減			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・井戸水総量の把握	△	継続	<p>品質異常や排水負担の事故が発生しトラブル対応を余儀なくされたが、かと言えど大きな原単位の低下、特出は見られずきちんと対応が出来ていたと判断します。*結果として内製売り上げは低調に終わったが、今期2025年度、各G毎の使用水量で異常は無く良好に推移した。「こまめな節水」対策を継続出来たものと考えてます。分科会として異常発生や改良・改善事項に即時対応にて変動する要因に素早く提案・着手できるように各Gとのコミュニケーションを取り着手内容のやり取りを継続する。</p>
・槽内洗浄化推進	○	継続	
・製造部のグループ別目標設定	○	継続	
・補給水、最重要箇所の洗い出しとライン毎の給水バルブ開度調整法	△	継続	
・夏季、年末年始給水量調査	△	継続	
・ムダ水カット	○	継続	
・夏季節水活動啓発ポスター掲示	○	継続	
・メイン通路壁水量記録ボード	△	継続	

グリーン購入			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
グリーン購入手順書の見直し	△	継続	<p>兼ねてから予定していたタイムレコーダーの更新を実施した。紙使用量削減と共に作業時間削減にも繋がるので来期に期待したい。値上げ情報では、使用量の多いシフト紙が値上げという事で、一番使用量の多い顧客に対してすぐに価格の安い白紙への変更をお願いして、了承頂いた。こちらも効果としては大きいので効果を期待したい。</p>
啓発活動	×	継続	
省エネ設備、エコ商品の調査	○	継続	
グリーン購入リストの見直し	×	継続	
備品等の使用量削減に繋がる活動	○	継続	

環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確立			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・トライボンの鉛フリー化(26年に向けて) 薬剤メーカーとの連携を図りながら現場導入までのステップを作成(6・10・2月に進捗確認)	△	継続	<p>今期は、環境負荷低減の工程プロセス拡充を目的としたトライボンPBフリー化と黒色皮膜の自社開発プロセスの2本柱で顧客課題の解決に積極的に取り組んだ。活動の評価としては、何分開発プロセスからのスタートでもあり計画通りに進まない調整期間や停滞期間も散見したが、トライボンのPBフリー化については概ね市場投入の目処がたっている。また黒色皮膜については試作開発などを限定的に進めているものの、リリーススタートアップにはまだまだ課題が山積している実情である。昨今の環境負荷低減に対する顧客の関心は年々高まる一方、機能面を重視した技術的評価も高度化しつつあると実感する。本活動を通じ、当社の新たな価値創造と高付加価値の提供にチャレンジし続けたいと考える。</p>
・イプロス製品紹介ページにおいて湿式めっきの省資源面をアピールしたページを作成(トライボン鉛フリー予告等)	△	継続	
・過去にPRした顧客への再アプローチ(特にトライボン1(鉛含有)で難色を示された顧客様)と情報収集(医療・食品関連顧客対象)	×	継続	
・タイアップ可能な顧客様との関係づくりで試作など評価	△	継続	

地域社会貢献活動			
目標達成手段			□上方修正 □下方修正 ■基準見直し
・会社周辺の清掃活動	◎	継続	<p>今期も、近隣の清掃、フタバアオイ、ヒオウギへの水やり当番制にてみんなで実施して頂きました。フタバアオイも順調に成長し、5月9日の上賀茂神社への奉納にも参加できそうです。災害時協力井戸設置は日新電機様の改善提案で1級受賞や、KBS京都(きょうとDays)の取材放送などがあり、弊社の環境活動をPR出来たと思います。その他、交通マナーを高める事故防止コンクール金賞受賞もありました。活動未達となったのが、AEDの設置と、飛び出し坊やの設置ですが、来季こそ結果を。</p>
・フタバアオイ奉納式(葵里桐り)の参加	△	継続	
・子ども110番アビール用ステッカー(腕章)の	×	継続	
・エコキャップ回収活動の周知	○	継続	
・AEDの設置検討	○	継続	
・飛び出し坊や設置	◎	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	評価
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃酸、廃アルカリ、金属くず、廃プラ等)の適正管理	遵守
大気汚染防止法	局所排気装置、排風機の届出と適正管理	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、点検の保存、適正廃棄等	遵守
水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の届出及び定期点検、記録の保存	遵守
下水道法	めっき設備、排水処理施設、局所排気装置の適正管理	遵守
騒音規制法	空気圧縮機、送風機の届出と適正管理	遵守
振動規制法	圧縮機の届出と適正管理	遵守
労働安全衛生法	集塵機、局所排気装置、めっき設備の点検、作業環境測定の実施等	遵守
消防法	危険物(シンナー、灯油等)の適正保管、消防活動阻害物質の届出	遵守
毒劇法	毒劇物の管理	遵守
PRTR法	特定化学物質の使用及び排出量及び移動量の届出	遵守
化審法	第一種特定化学物質使用の禁止	遵守

尚、関連当局からの違反指摘及び訴訟等は過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

グリーン購入分科会を発展的解消とし会社全体として取組むこととします。他は変更なし。
 注意事項として、結果だけの活動とならないように改善活動なども盛り込み、こうしたからこうなったと云えるよう極力数値化を願います。
 数値化することによって次の打つ手が見えてくると考えます。
 分科会活動の報告書作成及び各種記録の保管・管理等に苦慮されていると聞き、今事務局の方で各様式をシンプルに分かりやすく、見やすく、且つ時短報告できるものを熟考してくれていますので、各種様式が整い次第、利用・活用・運用してください。
 この夏も昨年に続き暑い日々が続くと思いますので、必要に応じて休息を取り、水分・塩分補給はしっかり行い、健康第一で安全に配慮した活動を願います。

環境経営方針	変更の必要性:	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
環境経営目標・計画	変更の必要性:	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
実施体制他	変更の必要性:	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無



□環境活動の紹介

総合支援学校の職場実習活動の協力に対し感謝状を贈りました。
 (令和7年4月15日)



社内で育てているフタバアオイを上賀茂神社に奉納しました。(葵里帰り)
 (令和7年5月6日)



KBS京都「きょうとdays」にて災害時協力井戸の取材を受けました。
 (令和7年6月16日)

高島町周辺清掃活動を有志で行いました。
 (令和7年11月27日)



交通安全コンクールにおきまして金賞の表彰を受けました。
 (令和7年11月27日)



さんばい適正処理・3R推進事業所シルバー認定(2回目更新)を受けました。
 (令和7年12月25日)